

# たてはく

令和4年度 後期特別企画展 **立山のお地蔵さま** —苦しみに寄りそう—

会期：令和4年9月17日(土)～11月6日(日)

「山中に地獄あり」と信じられた立山は、古来、地獄の救い主とされるお地蔵さまの霊場としても広く知られ、鎌倉時代の『地蔵菩薩靈驗記絵巻』（米国・フリーア美術館蔵）には、立山地獄を舞台に女性の亡者の身代わりとなって炎に包まれるお地蔵さまが描かれています。やがて、立山は阿弥陀仏の山としての色合いを強めていきますが、江戸時代に制作された立山曼荼羅の多くに、お地蔵さまは描かれています。例えば、賽の河原で石積みをする子どもたちに寄りそう姿や、紫雲に乗り阿弥陀さまの従者の一尊となって浄土から飛来する姿、さらには芦峯寺閻魔堂前にかつて鎮座した銅造地蔵菩薩半跏坐像の姿などです。県内外には立山ゆかりのお地蔵さまが伝わり、今もそれぞれの土地で人々の心のよりどころとされています。お地蔵さまへの信仰は時代を越え、立山の豊かな伏流水のごとく、人々の心に沁みわたっているようです。

本企画展では、ときに身を捨ててまで人々の苦しみに寄りそうお地蔵さまの姿かたちを、立山ゆかりの説話や絵画、仏像から紹介します。（石崎康弘）

数百年ぶりに里帰りのお地蔵さまも！



開催場所 立山博物館展示館1階 企画展示室  
開館時間 9：30～17：00（入館は16：30まで）  
観覧料 一般200円、大学生100円 ※高校生以下無料  
会期中の休館日 月曜日（ただし10/10は開館）、  
10/11（火）、11/4（金）

### ●文化講演会「地蔵霊場としての立山」

講師：渡浩一氏（明治大学国際日本学部教授）  
日時：10月15日（土）14：00～16：00  
※詳細は4ページ「秋の催し案内」をご覧ください

### ●「芦峯寺のお地蔵さま巡り」

講師：尾田武雄氏（日本石仏協会理事）  
日時：10月22日（土）13：30～15：00  
集合場所：展示館1階 エントランス  
※参加費無料、事前申込不要  
◎小雨決行。中止の場合HPやSNSでお知らせします。

※いずれも参加人数を制限する場合があります。当館HP等をご確認ください。

### ●企画展担当学芸員による展示解説会

10月10日（月・祝）、11月5日（土）いずれも14：00～

## 目次

令和4年度・後期特別企画展	
「立山のお地蔵さま —苦しみに寄りそう—」	1
令和4年度・前期特別企画展	
「いざ、立山へ！ —鉄道にみる立山観光—」を終えて	2
3年ぶり！「ミュージアムdeナイトin芦峯寺」を開催しました	2
まんだらナイトウォークを終えて	2
学芸課発 立博雑学	
第6回 「袖」にまつわるお話	3
博学連携 「出前講座」今昔 スライド・パワポ・オンライン	3
秋の催し案内	4
たてはく探検隊 直前で開催中止を決断	4
編集後記	4





令和4年度・前期特別企画展

# いざ、立山へ！ —鉄道にみる立山観光— を終えて

この特別企画展では、立山黒部アルペンルートと、そこへ人々を誘う鉄道の歴史を中心に約240点の資料を展示し、紹介しました。

「Ⅰ. そうだ、立山行こう！」では、富山県電気局の立山案内や絵葉書、戦前の鉄道案内などを、「Ⅱ. 鉄道がやってきた！」では、滑川—立山（岩峯寺）間に開通した立山鉄道の資料や、鉄道にまつわる資料を、「Ⅲ. 立山を開発せよ！」では、立山ケーブルに始まる立山黒部アルペンルート建設にまつわる文書やパネルなどを、「Ⅳ. いざ、立山へ！」では、富山地方鉄道立山駅へ乗入れた急行「立山」のヘッドマークや、立山・黒部のパンフレット、乗車券類を展示しました。展示室中央のNゲージ鉄道模型レイアウトでは、立山駅への乗り入れ列車や、北陸新幹線などを紹介し、不定期で運転も行いました。

また、観覧者へ配布した来館記念の硬券や、急行「立山」先頭車両のほぼ実物大パネルによる記念撮影コーナーも好評でした。観覧者から、懐かしいといった声も聞かれ、近代における立山の歴史の一端を紹介することができたのではないかと思います。最後に、本展開催に

あたりご協力いただきました関係のみなさまと、貴重な資料をご出品いただきました所蔵者の方々に、あらためて感謝申し上げます。（観覧者数：2,873人）（鈴木博喬）



会場風景



展示解説会の様子

## 3年ぶり！「ミュージアムdeナイトin芦峯寺」を開催しました



コロナ禍による幾多のイベント中止を乗り越え、3年ぶりに8月6日（土）・7日（日）の18時から21時まで開催しました。地獄をイメージした照明演出のほか、立山地獄めぐりスタンプラリーや、閻魔王との〇×クイズ対決、学芸員による立山曼荼羅絵解き解説を実施し、楽しく立山や立山地獄について勉強できるイベントでした。残念ながら天候に恵まれず、初日は雷鳴轟く大雨、2日目も一時雨が降りましたが、それでもご家族連れを中心にたくさんの方にご来館いただきました（展示館170名、教算坊187名、山岳集古未来館147名）。

また、平成28年と令和元年に好評を博した「地獄カフェ」を懐かしむ声もありました。いつかまた「開店」できる日が楽しみです。本イベントが「毎年恒例」として皆さまに定着するよう、今後もチャレンジしていきます。次の開催をお楽しみに！（坂口舞）



## まんだらナイトウォークを終えて

9月10日（土）・11日（日）の両日「まんだらナイトウォーク 光りと香りのページェント」を開催しました。今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、駐車場事前申込制による開催とさせていただきましたが、多数の方がご来館くださいました（10日379名、11日389名、計768名）。

幻想的な明かりと心が落ち着く香りで、日中とは雰囲気が大きく異なるまんだら遊苑では、多くの方がカメラやスマホで撮影を楽しんでいました。

富山県文化振興財団は、今後も立山博物館・まんだら遊苑の魅力を発信していきます。本イベントをきっかけにぜひご来館ください。（毛利成宏）





学芸課 発

## 立博雑学



学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博についての蘊蓄や魅力を、雑学としてお伝えします。

## 第6回 「袖」にまつわるお話

「袖にする」「袖を振る」など、「袖」にまつわる言葉には、心情を表すものが多くあります。次の和歌二首をご覧ください。

人知れぬ思いありその浜風に

波のよこそ言はまほしけれ 藤原俊忠

歌意：私は人知れずあなたをお慕っています。有磯の浜風に波が寄せるように、夜にあなたにお伝えしたいものです。

返し 音に聞く高師の浜のあだ波は

かけじや袖の濡れもこそすれ 一宮紀伊

歌意：浮気者と名高い、あなたの高師の浜のあだ波のような言葉など気にしない（波がかからない）ようにしましょう。真に受けて裏切られ、泣きぬれて（高波で袖がぬれて）は大変ですから。

康和4年（1102）に催された「堀川院艶書合」という、男女が虚構の恋の歌を詠む歌会の一場面です。当時、藤原俊忠29歳、一宮紀伊はなんと約70歳（推定）！どんな理由でかくなる次第に至ったかは定かではありませんが、一宮紀伊の見事な返しに他の貴族達は舌を巻き、賛美したことでしょう。

「思いありそ」は「（恋心が）ある」と「越中有磯海（高岡市伏木から氷見市一帯の海岸）」、「高師の浜」は「（浮気者との評判が）高し」と和泉国



「立山曼荼羅」に描かれた「片袖幽霊譚」の場面  
（左：「立山曼荼羅」善道坊本 部分、右：「立山曼荼羅」吉祥坊本部分）

（大阪府）堺市から高石市付近の海岸の掛詞です。「袖」という衣服の一部から、かくも優美な歌が詠まれるのが、日本文学の特徴のひとつといえるでしょう。

一方、立山にも「袖」を題材にした謡曲、「善知鳥」があります。本作で「袖」は立山地獄と陸奥外ヶ浜との場面転換や、登場人物の「ころろ」をあらわす重要なアイテムとして登場します。この「片袖幽霊譚」【画像】は中国に起源を持つお話だそうですが、これほど日本人の「ころろ」に響いたのは何故でしょうか。

近世に入って「片袖幽霊譚」は次第に変化を遂げていきます。お寺の縁起（「清涼寺縁起」）になったり、舞台が箱根になったり（『新御伽婢子』）、「片袖」の代わりに「手拭い」を渡したり（同書）、さらには悪事に利用されたりと様々です。今後も折にふれていろいろアレンジされた「片袖幽霊譚」をご紹介しますので、ご期待ください。

（奥澤真一郎）

博学  
連携「出前講座」今昔  
スライド・パワポ・オンライン

学芸課職員が学校などへ出向き、立山の歴史や自然、博物館の楽しみ方をお話する活動は、「ミュージアム教育講演会」として平成6年から始めました。翌年には「ジュニアミュージアム講座」と名前を改め、現在の「出前講座」に受け継がれています。初期にはスライド映写機を使いお話をしていましたが、後にビニール製の曼荼羅レプリカを教室に掛けたり、動画入りのパワーポイントを使うようになり、機器の進歩とともに内容も豊かになっています。

そして昨年度からは、PCで学校と繋いだオンラインでの出前講座も実施しています。まだ試行段階の取り組みですが、この後ウエイトが高くなりそうな気がします。

当館では、学校の要望に合わせて内容のバランスや尺を変え、遠足や立山登山の事前学習、またふるさと学習の授業のふさわしい内容で準備しています。学校関係の方は、当館HPにも案内がありますので、ぜひご覧ください。（吉野俊哉）



平成7年頃「ジュニアミュージアム講座」の様子





# 秋の催し案内

イベントの詳細は  
博物館まで  
お問合せください!



## 令和4年度 文化講演会

### 地蔵霊場としての立山

立山開山縁起での生身の阿弥陀如来が象徴するように、立山は阿弥陀信仰の霊山ですが、同時に古来、地蔵の霊場としても知られてきました。

本講演では、中世・近世の仏教説話集などから、立山地獄を中心に、立山における地獄霊験の諸相や地蔵信仰の有り様についてお話しいたします。

講師 渡浩一氏

(明治大学国際日本学部教授)

日時 10月15日(土)

14時~16時(開場13時30分)

場所 立山町元気交流ステーションみらいぶ 1階

(富山地方鉄道「五百石」駅舎)

定員 35名 ◎要事前申込

応募多数の場合は抽選。

締切 10月7日(金) 必着

詳細は当館HPをご覧ください。

## ◆立博ぶらり探訪

立山信仰の里・芦峯寺を、博物館の見どころとともに学芸員の解説付きで探訪します。

開催日: 10月8日(土) 13:00~15:00 雨天決行

場所: 展示館、教算坊、閻魔堂ほか

参加費: 無料

※定員15名、要事前申込。申込締切は9月28日(水)。応募者多数の場合は抽選。詳細は富山県文化財団HPをご覧ください。

## ◆もみじを愛でる会

教算坊で紅葉をながめながら、学芸員が「立山曼荼羅」の絵解き解説を行います。

開催日: 11月3日(木・祝)・6日(日)

時間: 各日 ①11:00~11:40 ②14:00~14:40

場所: 教算坊

参加費: 無料(申込不要)

## たてはく探検隊 直前で開催中止を決断...

今年は、3年ぶりの開催に向けて新しい企画を考えて準備を進めてきましたが、隊員募集も終わった後、直前になってコロナ感染拡大第7波が直撃しました。

楽しみにしていた子供たちのことを思うと残念なのですが、参加者の安全を第一に考えて、今年も中止を決めました。

来年こそは、さらに楽しめる内容を工夫して開催したいと思っています。ご期待ください。(吉野俊哉)

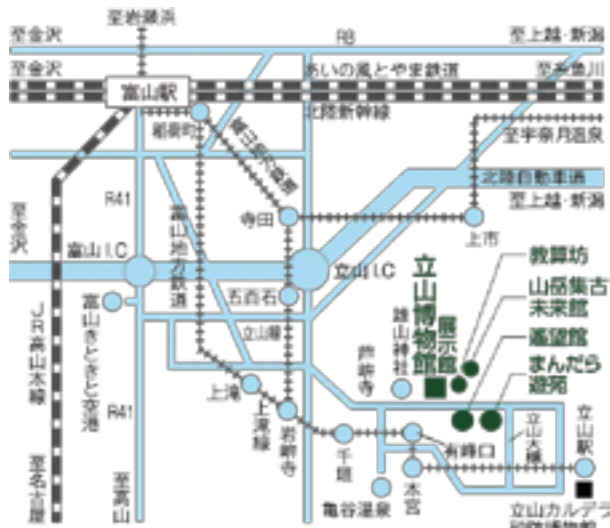
### 【おことわり】

本号に掲載する企画展等や各種行事につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止やその他の事情により、タイトルや内容、募集方法等を変更するか、中止する可能性があります。その際は適宜HPにてご案内します。詳しくは当館までお問い合わせください。

### 編集後記

コロナ禍に翻弄されて随分経つ中、やっと大きなイベントをふたつ開催することができ、感激もひとしおです。現在公開中の後期企画展は、お地藏さまの展示です。民間信仰では塞の神と習合し、外からの災厄を防ぐと信じられてきたお地藏さま。くたべと力を合わせて、この流行り病を退散してくださらないでしょうか…。(坂口)

### 案内図



- 最寄り駅  
富山地方鉄道立山線千垣駅  
下車徒歩(約2km)

※日曜を除き町営バス運行  
「雄山神社前」下車すぐ

- 自家用車で  
JR富山駅から 約45分  
立山駅(千寿ヶ原)から 約15分  
富山インターチェンジから 約35分  
立山インターチェンジから 約30分

立山博物館のホームページはこちらから。



人間と自然のかかわり方を学ぶ



## 富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺93-1

TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144

<https://www.pref.toyama.jp/1739/miryokukankou/bunka/bunkazai/home/index.html>



Facebookと



Twitterあります!

立山博物館

